

友情のことば、エスペラント 星田淳

2016. 8. 15 講演予定原稿サハリン、ユジノサハリンスクにて

北海道民にとって、サハリンはすぐ隣の外国であり、ある意味日本に一番近いヨーロッパです。また北海道では失われつつある大自然が陸に海に素晴らしく残されている楽園であり、同時に天然ガスを豊富に埋蔵するエネルギー基地です。ところが、過去の戦争、政治的な壁、言語の壁、文化的相違などで、多くの北海道民にとってその近さにもかかわらず、サハリンは謎の大地となっています。たとえばチェーホフは多くの日本人がその名を知り、少なくない人がその著書を読んでいるにもかかわらず、彼が19世紀にサハリンに滞在し、大部の著書「サハリン島」を著していることはほとんど知られていないのです。逆に、サハリンの人々は日本の有名な詩人宮沢賢治が1923年に北海道を経由してサハリンを旅行し、後に「銀河鉄道の夜」という幻想的な作品にしたことをご存じないことと思います。

みなさんは 国際語エスペラントについて聞いたことはありますか。
エスペラント語について聞いたことのある方、ご存知の方は手を挙げてください。
どんなことを聞きましたか。 ———

外国語を学べば 外国人と話せるようになる、とっていいでしょうか。その言葉を母語にしている人と同じように話すには 大変な努力が必要ですね。母語を話す人は特別の努力は必要ない。初めから立場は平等ではありませんね。

自分のことばの他に 外国人と話し合える 学びやすく使いやすい国際共通語があったらいいな、と考える人は沢山いました。多くの国際語案が発表されましたが発表後百年以上たっても 使われているのは エスペラント語だけです。ヨーロッパのことばの共通の要素を整理して文法を簡単にしてあるのでラテン系の要素が半分ほど、あとはゲルマン系、スラブ系などです。

このことばは1887年、ワルシャワに住んでいた眼科医 ザメンホフによって「エスペラント博士」という匿名で発表されました。当時ワルシャワはロシア帝国の領土でしたから このことばを発表する最初の本（第一書）はロシア語で書かれ、それに続いてほかのことばでも発表されました。

当然ながらこのことばは まず広大なロシア帝国のなかに広まりました。アジアで最初のエスペラント会ができたのは東京でも北京でもなく1891年のロシア極東、ウラジオストクでした。

エスペラントはその後いくつかの道を通って日本に入ってくるが最初の日本語の学習書が出たのは1906年。これはロシア文学者二葉亭四迷（長谷川辰之助）がウラジオストクを訪れた時そのエスペラント会の指導者Fjodor Postnikov から受け取ったロシア語の学習書を訳したものです。

ザメンホフはこのことばを発表したとき「国や民族の壁を越えて世界の人が 人間対人間として理解し合い人類を一つの家族に したい」という理想を持っていました。しかしこのような民衆（市民）同士の交流に警戒の目を向ける権力者・独裁者は 世界のあちこちに いたのです。

ナチス・ドイツのヒトラーは「エスペラントはユダヤ人による世界支配の道具だ」と主張、「非ドイツ的活動だ」としてエスペラント団体を解散させました。

世界で初めてエスペラントの切手を出したのは1925年のソ連でしたからエスペラントについては理解があると見たのですが スターリンの独裁体制になるとNKVD（秘密警察）の監視リストに「エスペランティスト」も入ることになります。1937年の「大粛清」でソ連エスペラント同盟の活動家も多くは逮捕されて強制収容所に送られ 活動は事実上停止します。

禁止や解散命令は 全くなかったにもかかわらず。

日本では1925年制定の治安維持法によって共産主義者への弾圧が始まるがやがて監視対象は あらゆる反体制的・非日本的（キリスト教会も）活動に広げられ エスペラントによる海外との文通も警察に報告を求められる状態でした。2次大戦に入ると 国際交流が主な活動であるエスペラント運動はもう何もできなくなりますね。事実上停止状態でした。

1945年、2次大戦終了。日本・ドイツ・イタリアではファッショ政権が崩壊。日本ではその年のうちに運動再開。平和とともに世界でエスペラント運動は再生しました。

しかしソ連や東ヨーロッパにできた社会主義国ではスターリン体制による弾圧がしばらく続きますが この地域のエスペラント運動はスターリンの死（1953）後数年で復活します。

結局、エスペラントを弾圧してきた権力は、遅かれ早かれ倒れていったわけです。

ソ連邦最後の時代、ロシアでエスペラントへの偏見がまだ強い頃、ウラジオストクで二人の若者が長い沈黙の後にエスペラントクラブを再建しました。

しかし長年エスペラントが国家権力に敵視されていた記憶はしばらく残っていたようです。クラブに「警告」が寄せられました。「エスペラントは反ソ勢力がスパイ行為のために使っている、そんな活動は危険だ、やめた方がよい -----」当時の若者の一人、のちのロシア国立極東ロシア大学の教授となったセルゲイ・アニケーエフさんがこのことを話してくれました。彼は北海道の同大学函館校の副校長を務め、退職しました。長く私たちの愉快的な友人でした。

もう一人は、国立ロシア極東工業大学の教授になったアレクサンドル・チターエフ教授です。彼は自分の大学でエスペラント語の講座を持ち、毎年100名の学生たちにエスペラントを教えていました。また、彼は週に一回夜学で中年の女性たちにエスペラントを教えていました。彼女たちの幾人かは中国や韓国や日本のエスペラント大会に参加し、彼女たちにとって普通では得られない体験をしました。

私たちは、2年に1回開かれる国立極東ロシア工業大学の国際学会に何度も参加しました。学会の公式言語はロシア語・英語にくわえてエスペラントも採用されていました。エスペラントで言語学についての発表会を行いました。

学会の後、私たちは現地のエスペランチストの手配と案内で、ダーチャで誕生会をしたり、先住民の村を訪問したり、要塞の廃墟を訪ねたり、2日ばかりで山に登ったりしました。残念ながら、チターエフ教授は4年前に亡くなり、今は電気技師のゲンナジー・シレプチェンコ氏がウラジオストック・エスペラント・クラブを引き継いで指導しており、中国や韓国のエスペラント大会に会員を連れて参加しています。

第二次世界大戦が終わって70年が過ぎましたが、まだ世界のあちこちで紛争が続いています。ザメンホフが夢見た「お互いの理解で築く人類の大家族」はまだ実現していません。

しかし ----- 毎年世界のどこかで開かれる世界エスペラント大会の場では、ことば、宗教などの違う多くの人たちが集まって、一つのことば（エスペラント語）で話し合い、そこでは「人類の大家族」が実現しているように見えます。こんな状態をどうしたらもっと広げることができるか、わたしたちは考えたいと思います。

日本では、多くの方が国際交流は英語で行うものと思っています。でも、もし私たちが英語を使ってウラジオストックを訪問したとしたら、これほど多くの友人を持たたでしょうか。これほど多くの経験をえたでしょうか。今回の訪問団の事務局長をしている宮沢氏は、札幌の自宅を旅行するエスペランチストに無料で開放しています。英語である程度仲良くなることはできます。でもいきなり宿泊はできませんね。

日本では、英語はビジネスのための言語であり、出世のための言語です。エスペラントは友情のための言語です。

2017年、来年の7月、韓国のソウルでエスペラントの世界大会があります。私たちは中国、韓国、ベトナム、東ヨーロッパ、西ヨーロッパ、北アメリカ、南アメリカ、もしかしたらアフリカの仲間とも出会うことができるかもしれません。もし、サハリンにエスペラントクラブが結成されて、代表を韓国に派遣できるなら、北海道経由で世界大会に参加できるよう、私たちも支援したいと考えています。そのときはぜひ北海道で講演をしてほしいと思います。

サハリンと北海道を兄弟の関係にするため、微力ながら両島のエスペランチストの協力を作っていきます。

私の話はこれで終わりますが、何か質問や意見はありますか。-----
あとでメールで問い合わせしてくださっても構いませんが、私たちがロシア語をよく解さないことをご承知おきくださって、平易なロシア語で質問してください。また、返信に時間がかかることもご容赦ください。メールアドレスは hosidaacusi@kir.biglobe.ne.jp です。

本日は、ありがとうございました。引き続きエスペラント語初歩の簡単な講習「エスペラント語ABC」を行います。